

## Nafion 型光触媒コーティングを採用した都内経年物件

光触媒のバインダー成分は一般にシリケート系の無機高分子なのですが、施工が難しく耐久性にも問題を抱えています。当社代表の北村は20年以上前からその問題の抜本的な解決策としてバインダーにNafion型フッ素樹脂の採用を主張してきました。その効果を実証する都内の代表的な物件の近影をご紹介します。

ちなみにTOTOの保有していたシリケート系光触媒基本特許は2016年に切れましたが当社のNafion系光触媒基本特許（第6539370号）は2038年まで有効です。

	<p>アトレ恵比寿（2004年）</p> <p>大手町の日本ビルディングが解体された後では日本最古の光触媒施工物件になるのではないのでしょうか。 この外装が光触媒であることを知る人々もほとんどいなくなったのですが、今となっては歴史的建造物といえるでしょう。</p>
	<p>マルイ新宿店 2010年</p> <p>PC張り外装に採用していただきましたが決め手は「目地にもそのまま塗布できる」という、シリケート系光触媒ではありえない特長をご評価いただいたことです。</p>
	<p>高輪子ども中高生プラザ（2011年）</p> <p>純白を基調にした外装が高級感を醸し出しています。 凹凸に富んだ外装ながら13年を経ても建築当時そのままの姿を保っています。</p>



新宿瑠璃光院白蓮華堂（2013年）

建築家竹山聖氏の代表作として評判になりました。総打ち放しコンクリートですが曲面を多く取り入れた斬新なデザインをしています。  
とくに下向きR部は汚れが出やすいのですが建築後10年を経てもまったく汚れは見られません。



GiG02号館（2022年）

まだ竣工後2年しか経過していませんが、光触媒が現場施工と焼き付けパネルの両方に採用された日本初の建造物です。

お問い合わせは（株）ケミカル・テクノロジー代理店の